

●下線部が訂正箇所です。

ご確認くださいませ。

「掃除の力が日本を変える」

掃除道を追求し、人々の豊かな暮らしを支えたい

2006年に『沖広ビルテック』を設立し、一人でビルの窓ふきを請け負うところから始めた沖米田社長。現在はビルメンテナンスに関するあらゆる分野を網羅し、建物のことならどんな相談も24時間受け付ける体制を整えている。しかしながら、同社の芯を貫くのは今でも“掃除”の大切さだ。社長はどんな思いで、“掃除屋”の務めに励んでいるのだろうか。

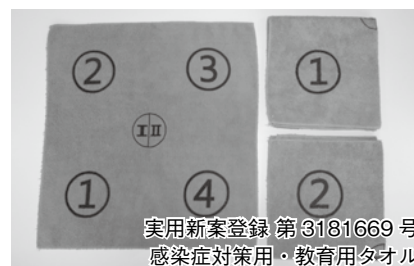
島田 まずは、御社の業務内容から。

沖米田 当社は総合ビルメンテナンスを手掛けており、創業当初は高所ガラス清掃から始めました。その後オフィス・店舗清掃、ハウスクリーニング、電気工事や建築設計・施工、老人ホームの管理運営など、業容を拡充。しかし当社の基本は、あくまで“掃除屋”です。ただ清潔を保ち、整理整頓をするというだけではなく、掃除を通じて居心地良く、安心して過ごせる環境を整え、人々の豊かな暮らしを支えたいと考えています。

島田 何故またお掃除に着目？

沖米田 窓ふきのアルバイト経験や、防衛大学在学時に1日3回の掃除を課されていたことで、その大切さを身にしみて学びました。それに目に見えて綺麗になれば気持ちよく、お客様に喜んでいただける。独立するなら、頑張れば頑張るほどお客様に喜ばれる仕事をしたいという思いがありました。独立の際は周囲から大いに支えていただきましたので、その感謝を忘れず真摯に仕事に取り組み、社会に貢献すべく努めています。

島田 綺麗になれば嬉しいですね。
沖米田 ええ。しかし掃除とは、当社が手掛ける専門性の高いものばかりではなく、本来は日常的に誰もが行うことです。昔は靴を揃えていなければ親に怒られるのが常でした。しかし最近ではそんな意識が薄れているように思われます。たと



えば親が子を、子が親を手にかけるような事件を頻繁に耳にしますが、そうした家は大抵、ゴミが散乱し傷んだ食べ物が放置されている。きちんと掃除をすることが住みよい環境をつくり、豊かな人間性を育み、ひいては犯罪防止につながると私は考えています。そのため当社では幼稚園や企業などで講演を行い、掃除教育の普及に努めるほか、子どもや社会人が掃除をしやすい商品開発にも取り組んでいるのです。タオルの表面に番号を記して使用順序を分かりやすくした「教育用タオル」を使うことで、タオル全面を使う方法を自然に身につけ、楽しく掃除をしてもらえるようにと考えています。また使い捨てにせず、全面を使用してから洗うことは物の大切さを学ぶことにもつながるでしょう。掃除の力が日本を変えると信じて、より良い社会のため、人々の豊かな暮らしのために力を尽くして参ります。

(2013年11月取材)

代表取締役

沖米田 浩朗

インタビュアー
島田 陽子

株式会社

沖広ビルテック

大阪府吹田市南金田 1-10-2

TEL 06-6310-7724

FAX 06-6310-7725



▶「掃除の力が日本を変える」を信条とする同社では、トイレ清掃にも力を入れる。現在、100万個を目標に掲げてトイレ清掃活動を推進中だ。右上の写真のように汚れていたトイレを、右下のようにピカピカに磨き上げていく。

